



令和8（2026）年6月10日

校長だより Vol.5

「同じ星を見て歩いていきましょう！R8⑥」 ～「おんにここにこ はらたつまいぞ そわか」～



『礼儀正しい挨拶を基本として・・・』を励行してから、約2か月半が経過しました。

まずは、自分が率先垂範して、しっかりと立ち止まり、TPOに応じて挨拶をしてくださる先生方が多くいらっしゃいます。生徒はきっと、こうした先生方の姿を見て、感じて、学んでいると思います。

嬉しいし頼もしい限りです、ありがとうございます。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

前号でも、生徒を『やる気』にさせるコツは、タイミングを外さずに『褒める』ことだとお知らせしたわけですが、生徒のことをよく見ていればいるほど、『この前も指摘したばかりなのに・・・』とか、『なぜ、やろうとしないんだ。』というような、腹立たしくなる感情が湧くことがあると思います。

「おんにここにこ はらたつまいぞ そわか」は、一言でいうと「どうか、ここにここと怒らずにいられますように」という祈りと戒めの言葉です。仏教の「真言（マントラ）」の形式を借りて作られた、心を穏やかに保つための「呪文」のようなものとして知られています。このフレーズは、真言の構成（始まりの「おん」と終わりの「そわか」）に、日本語の訓戒を挟み込んだ形になっています。



おん（オン）： 真言の冒頭につく言葉で、聖なる響きや帰依を表します。

にここにこ： 笑顔でいる様子。

はらたつまいぞや： 「腹を立ててはいけないよ」「怒るまいぞ」という自分への戒め。

そわか（そわか/薩婆訶）： 真言の結びの言葉で、「成就しますように」「幸あれ」



といった願いを意味するそうです。

由来と背景としては、本来のお地蔵様の真言「**オン カカカ ビサンマエ ソワカ**」の「カカカ」が笑い声のように聞こえることから、禅僧などが分かりやすく「おんにここにこ～」と説いたのが始まりという説があります。また、つついイライラしたり、感情的になりそうな時にこの言葉を唱えることで、ふと我に返り、冷静さを取り戻すための「心の整理術」として使われます。曹洞宗の僧侶・西有穆山（にしありぼくざん）などが広めたとも言われており、現代でも法話や人生訓の中で、穏やかに生きるための知恵として紹介されています。生徒を成長させようと真剣になればなるほど、情熱を込めて何度指導支援しても成果が表れない生徒に対して、つい苛立ってしまうこともあるかもしれません。しかしながら、生徒はみな同じではありません。身につけたい力が定着するまでも個人差があります。そんな時には是非この言葉を思い出してみてください。そして、諦めないでください。生徒が一步一步成長して、『生きる力』が定着するまで根気強くお願いします。どうしても感情が波立ったときには、お守り代わりに心の中で唱えてみてください。少しは気持ち楽になるかもしれません。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

この「おんにここにこ はらたつまいぞ そわか」は、以前も御紹介した私の愛読書である安岡正篤さんの名言集『天籟の妙音』から引用しました。さらに、もう一つ御紹介します。・・・、なるほど、です。

教学半（なか）ばす ～ 教えることは学ぶこと ～

『教学半ばす』。我々は学んで初めてその足らざるを知り、教えて初めて到らざるを知る。そこで自ら反（かえ）り、強（つと）めるのだ。教えることは学ぶことであり、学ぶことによって教えることができる。『教学半ばす』る所以（ゆえん）である。



あすなる（静岡県総合教育センター）には、『拓究創支』という基本理念があります。

「研究なくして研修はできない、センターはそのためにある。」と当時の部長から教えていただきました。センターの基本理念は、『教学半ばす』に通じる考え方だと、ふと思いました。



1. 「極上のホスピタル」へ昇華させた感動

準備段階が限られた時間の中で、生徒の皆さんと先生方が共に悩んで創り上げたあの空間には、まさに本校が目指す『生きる力』が満ち溢れていたと思います。来場された皆さまの『良かった！』という笑顔が、その何よりの証拠です。

テーマである『紡ぐ～START FROM HERE～』の通り、西高生の『お・も・て・な・し』で、素晴らしいスタートが切れた『ともえ祭』でした。



2. 文化祭で培った「人間力」を、今度は自分の未来のために

さて、行事の熱気冷めやらぬ中ですが、3年生はいよいよ進路実現に向けた本格的な夏へと突入します。特に就職活動を控える皆さんは、求人票の公開を前に緊張感が高まっていることでしょう。しかし、心配することはありません。生徒の多くは『ともえ祭』で、TPOをわきまえた最高に爽やかな挨拶や、相手を思いやるホスピタリティを実践し、自らの価値を高める経験をすでに積んでいます。面接や試験の場で求められるのは、まさにその『生きた人間力』です。生徒が自信を持って一步を踏み出していけるように、西高の全教職員でまずは3年生の挑戦を支えましょう。そして、1・2年生も。

3. 仲間と共に、同じ星（目標）を見つめて駆け抜ける夏

野球部のみなさんにとっては、いよいよ集大成の夏がやってきます。6月28日（日）に開幕する全国高等学校野球選手権静岡大会が始まります。日頃の練習で培った技術と、少人数のハンデをもろともせず白球を追ってきた情熱を、今こそグラウンドで思い切り表現してください。ピンチの時こそ、「自分ができる！」「俺たちなら絶対できる！」そう信じて、自分たちの野球を貫いて『勝って』ください。清水西高の誇りを胸に一球一球を紡いでいってほしいと思います。きっとやれると信じています。

生徒、保護者、地域、教職員が「清水西高をさらに良い学校にする」という同じ気持ちで、『同じ星』を見上げながら、全校一丸となって熱い声援を送りましょう！この夏、西高野球部は、旋風を巻き起こす！ 私はそう信じています。 **ガンバレ～！！**



4. 生徒の『その先』の景色を、私たちはどれだけ想像できているだろうか。

「同じ星を見ながら歩こう」と生徒に呼びかけるとき、まず私たち教職員が、その星（未来の可能性や選択肢）の輝きをリアルに想像できていなければなりません。今、目の前で課題に悩んでいる生徒、一步を踏み出せずにいる生徒。彼らが5年後、10年後にどんな社会で、どんな表情で生きているか。私たちの指導や枠組みは、生徒の未来や可能性を開かせているのか。日々の忙しさに追われる中でも一歩立ち止まり、「この子の未来には、まだ見ぬどんな広い世界が広がっているだろう」と想像してみてください。先生方の豊かな想像力こそが、生徒たちが進むべき道を照らす輝き（星）となるはず。生徒一人ひとりの無限の可能性を信じ、その未来を伴走するパートナーとして、共に想像し、

『西高ならではの鐘を鳴らす』

『鐘の音をハーモニーにする』

仕掛けをしていきましょう。

